

私は自治医科大学を2010年に卒業し、現在僻地診療所で地域医療に従事している5年目の内科医師です。在学中から公私ともにお世話になっている矢野晴美先生とのご縁で、去る2014年5月にUCLA-Olive View Medical Center（以下、OVMC）での臨床見学プログラムに参加する僥倖に巡りあうことができました。私がこのプログラムへ参加を志望した一番の理由は、病歴と身体所見に基づいた臨床推論の手法を肌で感じたいという気持ちからでした。多くの方々との出会いを通して大変充実した時間を過ごすことができましたので、以下にご報告したいと思います。

◆ OVMC について

OVMCはカリフォルニア州 Sylmar に位置する County hospital で、San Fernando および Santa Clarita Valley 地区の低所得・貧困者層にプライマリ・ケアを提供しています (ValleyCare)。1920年、結核専門のサナトリウムとして設立されたという歴史的背景があり、今や全米で4ヶ所しかない結核専門病棟を有する病院としても知られています。1970年代にカリフォルニア大学ロサンゼルス校（以下 UCLA）教育病院となって以来、同院での内科レジデンシーは高い人気を誇っています。

◆ Internal Medicine

5月2日からの約3週間、Internal Medicine を見学しました。見学初日早々に受けた衝撃は、医学生や1年目の研修医 (Intern) のプレゼンテーション能力の高さでした。年齢、人種、性別、主訴から始まるプレゼンテーションの型は、医学生においても十分に洗練されていましたし、彼らがチームの一員として、診断やマネジメントに対する自分なりの意見を話す様子にはすっかり圧倒されました。残念ながら Pre-round への同行は叶いませんでしたが、医学生が医療現場においてそれだけ主体的/実践的に関わること自体に、日米間における教育の土壌の差異をみることができました。

教育の土壌ということに付け加えて、Noon lecture で配布される評価表についても言及したいと思います。昼休みに行われるこの講義は、指導医 (Attending) が各々の専門領域について1時間程度話すものですが、ここで配布される評価表で参加者 (Intern や Junior Resident) によって、話題が適切であるか、この講義を薦めたいと思うかなどの項目について Excellent から Poor の5段階評価を受けます。米国の高い医学教育水準は、このような外的圧力によって担保されていること、Attending がフィードバックを受けて自己改善に努めている様子が印象的でした。

◆ Infectious Diseases

最後の1週間余りを Infectious Diseases の Attending である Dr. Mathisen の shadowing をして過ごしました。以下、いささか個人的な経験についてお話をすることをお許し下さい。Dr. Mathisen は、英語でのコミュニケーションが十分にできない私にも熱意を持って指導して下さり、またコンサルトを受けている最中にその患者さんのところに走りだしてしまうような、好奇心の旺盛な指導医でした。彼は、糖尿病足壊疽患者の趾間、HIV 陽性患者の歯の生え際、感染性心内膜炎疑い患者の爪に、いかに示唆に富んだ所見が秘められているかについて

語り、一瞬でも” Coxy” や結核と接触する機会がなかったか執念深く病歴を聴取していました。これらの病歴と身体所見を重視する一貫した診療スタイルは私に強い感銘を与え、日本に帰ってからは、彼がしていたように診察しよう、と心に決めました。

毎週木曜日の clinic day では、primary pulmonary coccidioidomycosis や神経梅毒などの興味深い症例に恵まれ、ブースのドアを開けるのが楽しみでもありました。また、county hospital の性格を反映してか糖尿病性足壊疽による慢性骨髄炎の患者さんが多く、PICC カテーテルを挿入した上での在宅抗菌薬静注治療 (Outpatient Parenteral Antimicrobial Therapy: OPAT) を実際に目にすることができたのも、大きな収穫でした。

◆ 総括

今回のプログラムへの参加は、米国の医学教育や臨床推論の手法について学ぶ機会となったばかりでなく、ロールモデルとなる医師と出会うこともでき、私を予想もしなかった方向へ転換するきっかけになったように感じます。私のような rural physician にこのような貴重な機会を与えてくださった矢野先生をはじめ ACP 日本支部の皆様、OVMC のスタッフの皆様方に深く感謝の言葉を述べ、体験記を締めくくりたいと思います。どうもありがとうございました。